

## (3) 算 数

### ア 学習指導要領改訂の趣旨及び要点

#### ア 改訂の趣旨

- 改訂の基本的な方向性は、次の2点である。
  - ・ 数学的に考える資質・能力を育成する観点から、実社会との関わりと算数・数学を統合的・発展的に構成していくことを意識して、数学的活動の充実等を図った。
  - ・ 社会生活など様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められており、そのような能力を育成を目指すため、統計的な内容等の改善・充実を図った。

#### イ 改訂の要点

##### a 目標の改善

- 変更された点は、次の3点である。
  - ・ 育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で整理した。
  - ・ 「数学的な見方・考え方」を、「事象を数量や図形及びそれらの数量関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること」として整理した。
  - ・ 日常生活や社会の事象に係る問題解決の過程と数学の事象に係る問題解決の過程の二つの過程が相互に関わり合って展開することを重視した。また、これらの場面において、言語活動を充実し、それぞれの過程を振り返り、評価・改善することとした。

##### b 内容構成の改善

- 変更された点は、次の2点である。
  - ・ 「A数と計算」、「B図形」、「C測定」、「C変化と関係」、及び「Dデータの活用」の五つの領域とした。「C測定」は下学年、「C変化と関係」は上学年としている。
  - ・ 数学的活動については、従来算数的活動をして各学年の内容に位置付け、内容ごとに具体的に示していたものを、問題発見・解決の過程として数学的活動を位置付けたことに伴い、枠組みのみを示すものとした。

##### c 学習内容・学習指導の改善・充実

- 新たに加えられた点は、次の2点である。
  - ・ 第6学年「データの考察」において、ドットプロット、中央値や最頻値といった代表値も取り扱う。
  - ・ プログラミング教育についても内容の取扱いで触れる。
- 従前の項目に加えられた点は、次の5点である。
  - ・ 第3学年「長さ、単位と測定」において、メートル法の単位の仕組みを扱う。  
〔k（キロ）、m（ミリ）などの接頭語について〕（第6学年から）

- ・ 第4学年「平面図形の面積」において、メートル法の単位の仕組みを扱う。  
〔長さと面積の単位の関係について〕 (第6学年から)
- ・ 第5学年「立体の体積」において、メートル法の単位の仕組みを扱う。  
〔長さと体積の単位の関係について〕 (第6学年から)
- ・ 第5学年「異種の二つの量の割合」において、速さを扱う。 (第6学年から)
- ・ 第6学年「分数の乗法、除法」において、分数×整数、分数÷整数を扱う。  
(第5学年から)

○ 従前の項目から削除された点は、次の1点である。

- ・ 第5学年「整数の性質」において、素数を取り扱わない。(中学校第1学年へ)

○ 従前と変わらない点は、主に次の1点である。

- ・ 数や式、表、グラフといった数学的な表現を用いて、筋道を立てて考え表現することを重視した。

## イ 指導計画作成のポイント

○ 新たに加えられた点は、次の10点である。

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図ること。
- ・ 低学年における他教科等や幼児教育との関連を積極的に図ること。
- ・ 障害のある児童へ指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に図ること。
- ・ プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行うこと
- ・ 具体的な体験を伴う学習する機会を設けること。
- ・ 数学的活動を通して指導するようにすること。
- ・ 数学的活動を楽しめるようにする機会を設けること。
- ・ 見通しをもって数学的活動に取り組み、振り返る機会を設けること。
- ・ 数学的な表現の相互の関連を図る機会を設けること。
- ・ 学び合うことやよりよく問題解決できたことを実感する機会を設けること。

○ 従前と変わらない点は、主に次の7点である。

- ・ 継続的な指導や学年間の円滑な接続をさせること。
- ・ 領域間の指導の関連を図ること。
- ・ 道徳科などに関連を考慮すること。
- ・ 考えを表現し、伝え合うなどの活動を積極的に取り入れること。
- ・ 必要な場面においてコンピュータなどを適切に活用すること
- ・ 用語・記号の指導に当たっては、各学年の内容と密接に関連させて取り上げること。
- ・ およその大きさや形を捉え、適切に判断すること。
- ・ 筆算による計算の技能の確実に身に付けるとともに、計算の結果の見積もりをして、計算の仕方や結果について適切に判断できるようにすること。